

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)相模原計画 新築工事	階数	地上14F
建設地	相模原市中央区相模原2-150-3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2024年10月7日
敷地面積	1,015 m ²	作成者	株式会社谷口建築企画一級建築士事務所
建築面積	576 m ²	確認日	2024年10月7日
延床面積	6,294 m ²	確認者	株式会社谷口建築企画一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

環境品質 G

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 92%

③上記+②以外の 92%

④上記+ 92%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

音環境 2.8

温熱環境 2.4

光・視環境 3.2

空気質環境 4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性 4.1

耐久性 3.1

対応性 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境 3.0

まちなみ 3.0

地域性・ 2.5

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

建物外皮の 2.0

自然エネ 3.0

設備システ 3.7

効率的 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源 3.4

非再生材料の 2.8

汚染物質 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化 3.3

地域環境 3.0

周辺環境 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	JR横浜線相模原駅から徒歩で6分の商業地域にRC造・14Fの集合住宅を計画した。	
その他	特に無し。	
Q1 室内環境	換気量・自然換気性能に配慮している。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	耐用年数の長い内装仕上げ材を採用。階高にて、ゆとりのある設計をしている。	Q3 室外環境 (敷地内)
Q3 室外環境 (敷地内)	特に無し。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	BEI=0.83、LED照明等により省エネルギー性に配慮している。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	軽鉄採用にて、躯体と仕上材が容易に分別可能になっている。GL工法を採用している。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	光害対策は、ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される